

大阪府大阪市都心部方言の立ち上げ詞

鏑木 昌博

I. はじめに

1. 調査対象地：大阪市中央区内久宝寺町2丁目。内久宝寺町は市内中心部の商業地域で、船場のやや東に位置する。
2. 調査年月日：2005年8月26日 午後2時から午後4時
3. 話者：氏家正男さん（大正8年7月20日生 86歳）
氏家由紀子さん（昭和3年1月27日生 77歳）
二人は夫妻。回答は主に正男さん、ときどき由紀子さんが補足。
4. 調査者・調査場所：鏑木昌博・話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：アクセントは、声の上がり下がりや「**〔**、**〕**で、拍内下降は「**]**」で表す。話者の注釈は〈 〉内に記す。調査者の補足は※で記す。

II. 調査結果

1. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」
 - (1) どっこいしょ。一休みしよう。
○「ヨッ」コラ「シヨ。「アー」シン「ド。「チョッ」ト「ヤスモ カ。
 - (2) どうれ。出かけることにしよう。
○「サ」テト。「イコ カ。
 - (3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。
○「アー」シン「ド。「ヤッ」ト ツイタ「ナ」ー。〈「よいこらしよ」は言わない〉
 - (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！
○「アッ アブナ」ー。〈崖から落ちそうになったとき、「しまった」とは言わない。後悔で「しまった」と言うとなれば、「シ」モタ〉
 - (5) くわばらくわばら。恐ろしかった！
○「アー」コ「ワ」カッ「タ。〈「くわばらくわばら」は母親（明治33年生）が雷のとき言っていたが、自分は言わない。〉
 - (6) しめた！ 今度の魚は大きいぞ。
○「キ」タ「キ」タ。ヤッ「タ」ー。コン「ド」ノワ「オー」キー デ。
 - (7) ままよ。飛び越えるしかない。
○ {①「エ」イッ/②エ「ー」イ} 「トビコエント シャー」ナイ。
 - (8) なにくそ！ 負けてなるものか。
○ク「ソッ。〈「なに」は付けない〉
 - (9) しめしめ！ 誰も気がついていない。

ON. R <〇「ドロボー シ」タ コト ナイ「サ」カイ 「ワカリマヘン。心中描写の語として知っているが、言うような状況が想像できない

(10)ちえっ。つまらないなあ。

ON. R <「ちえっ」とは言ったことがない

(11)ちくしょう！ 仕返しをしてやる。

ON. R <喧嘩をしたことがないので自分は言わないが、「ちくしょう」は聞いたことがある> ※以下、(11)(12)の喧嘩言葉は話者の想像で当方言を再現してもらった。

〇「チクショ」ー。「ヤル」ンヤッ「タ」ラ 「ヤッテ ミ」ー。

(12)くそっ！ 覚えている！

〇ク「ソ」ッ。「オボエト」ケ。

(13)おやおや、いったいどうしたの。

〇ナニ {①「ナイト」ン }ネン。/②「ナイトン」ネン。}<「おやおや」は言わない。「アー」とか「オー」とか感動詞は付けるかもしれない

(14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

〇ワシガ 「ユ」ータ ト「ー」リヤ ナイ カ。<自分の予想どおりにことが運んで、得意になるときの言い方。「えへん」などという言い方は、芝居地味でいて言ったことがない

(15)はてな、ここはどこだろう？

〇「サ」ー 「ナ」ー。ア「レッ」 「ドコ」ヤッタ カイナ」ー。

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16)はい、承知いたしました。

〇「ハ」イ 「ワカリマシ」タ。

(17)はい、宜しゅうございます。

〇「ハ」イ 「ケッ」コーデ 「オマス。

(18)ええ、ここに居ます。

〇「イテマッ」セー。

(19)んだ。私の傘です。

①「ヘ」ー 「ソーデス。/②「ウン」 「ソ」ーヤ。<目下の場合>

(20)さよう、さよう。あなたの言う通り。

①「ソーダ ソーダ。<アクセントに注意。「ソ」ーダとは言わない> ※「ダ」は「ダス(です)」の省略形

②「ソーダッ」セ。<丁寧>

(21)はいきた。おやすいご用です。

ON. R

(22) よっしゃ。やりましょう。

○「ヨッ」シヤ。「ヤリマヒョ。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○「ホ」ナ {①「イッペン ヤツテミマヒョ カ。／②「ヤラシテ モライマツ サ。}

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○「ホ」ナ 「イキマヒョ カ。

(25) かっぱのへだ。簡単だ。

○へノ 「カッパ」ヤ。カンタ「ン」ヤ。〈「かっぱのへ」ではなく、「へのかっぱ」〉

(26) いえいえ、とんでもございません。

○「メツ」ソーモ 「オマヘン。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○イー「エ 「タ」イシタ コ」トヤ 「オマヘン。

(28) なあに、擦り傷ぐらい、すぐ治るさ。

○イ「ヤ」イヤ ス「リ」キズク「ライ 「ス」グ 「ナオリマ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○ナ「ン」ヤ 「ネン。「チョーシノ 「エー コ」トバツ「カ」リ 「イーヤ」ガツテ。

(30) いやはや、とんだ目に遭いました。

○「エ」ライ メー「ニ 」オー「タ。〈「いやはや」とはあまり言わない〉

(31) へん、勝手にしやがれ。

○「ホットイテ ク」レ。「カッテニ セ」ー。〈「へん」とは言わない〉

(32) なめるんじゃねえよ！ こいつ！

①ナメヤ「ガツ」テ。

②ナメ「ト」ン カ。オリヤ」ー。〈言ったことはないが、言うとするれば〉

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

①「ジョー」ダンヤ オマヘン 」デ。

②「ンナ コ」ト 「オマツ カ」イナ。ジョー「ダ」ン 「イーナ」ハン ナ。

(34) だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って！

○「ヤカマ」シ ワ。エーカゲ「ン」ナ コ」トバツ「カ」リ 「イーヤガツ」テ。

(35) そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○「ソー」ワ 「トンヤガ オロサン ワ」イナ。

(36) うそもへちまもありやしねえ。我慢できねえ。

○N. R ※「～もへちまもあるかいな」という言い方は耳にする。

(37) 寝言は寝て言え。このやろう。

○「ネゴト ユーテン」ノト 「チャウ カ。ア「ホ」 「チャウ カ。

(38) あたりきしやりきのけつあな。当たり前だ！

①アタリキ「シャ」リキノ 「ケツノ」ア「ナ。〈母親が言っていた〉

②アタリキ「シャ」リキノ 「カップノ」へ「ー。

(39)きみょうきてれつだ。それは変だ。

○「ケツ」タイナ「ナ」ー。〈「きみょうきてれつ」という語は知っているが、使わない〉

(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○「ソラ オヤコ」ーコーダン「ナ。〈「ほほう」「ほう」を付けると、意外な感じになる〉

(41)まいったまいった。しかたがない。

○マ「イ」ッタ。「ヤラ」レタ。「シャー」ナイ。

Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○スンマへ「ン。「チョット」オタンネ「シマス。「ドッチ イツ」タラ「ヨロシオマン」ネン。

(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○N. R

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○「ホ」レ「ミテ ミナ」ハレ。「ム」コーニ「コーエン オマツ」シャロ。

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○「オ」イ。「コンナ」ハ「ヨ」カラ「ドコ イク」ネン。

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○{①「オ」ー/②「ヨ」ー}「ゴキゲンサン。イマ「カ」ラ ナニ「スン」ネン。

(47)いざ、さらば。

○{①「ホ」ナ/②「ホン」ダラ}「ゴキゲンサン。「サ」イナ」ラ。〈気取らない〉

(48)ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○「ドーズ エンリョセ」ント「ドーズ。

(49)さて、そろそろ一服しませんか。

○「ソレワ ソ」ート「ソ」ロソロ「イップクシマヘン カ。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○「コ」レコレ「チョット シ」ズ」カニ「シー。

(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。

○「オ」イッ「コ」ラッ。

(52)おどりやあ。いい加減にしないか！

○{①「オンドレ」/②「オンドリヤー」エーカゲンニ「セン カ」イ。

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○N. R

(54)どっこい。その手には乗らない。

○N. R

(55)どうだ、参ったか？

○N. R

※(53)～(55)話者自身使った経験がなく無回答。いずれも芝居の言葉との説明あり。

(56)せいの、よいしょ！

○「ヨ」イシヨ。〈「せいの」を付けるのは新しい感じがする〉

(57)ようい、どん！

○「ヨー」イ「ド」ン。

(58)いっせいの、で！

○N. R 〈「いっせいの、で」は言わない〉

(59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ！

○「ヨ」イ「シヨ。

(60)うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○「ヨ」イ「シヨ。「ヨ」イ「シヨ。モー「チョツ」トヤ。

(61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい

○「ワツ」シヨイ「ワツ」シヨイ。

(62)はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！ あいこでしょ。

○「イ」ンジャン「ホ」イ。「ア」イコデ「ホ」イ。〈「ジャ」ンケン「ホ」イは新しい言い方〉

(63)きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○「キオ」ツ「ケ」ー マ「エ」ー「ナラ」エ ナ「オ」レ。

(64)きりつ、れい、ちやくせき。

○「キリツ」レイ「チャクセキ。

(65)ばんざい、ばんざい。やった、やった！

○「バンザ」イ。

(66)えいえいおう。頑張るぞ。

○N. R 〈昔は言わなかった〉

(67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい、おめでとう。

○「ナカムラ」クンノ「タンジョー」ピオ「シュ」クシテ「カンパーイ。オメデ」ト「ー」サン。

(68)やっほう、やっほう。

○「ヤツ」ホー。

- (69) ふれえ、ふれえ、白組。
○「フレ」ー 「フレ」ー シログ「ミ。
- (70) おにはそと、ふくはうち。
○「オニワ」ソト 「フクワ」ウチ。
- (71) べらぼうめ、とんでもない子だ。
○N. R (東京の言い方)
- (72) それみたことか、わんぱく坊主。
○「ホ」レ 「ミテミ」ー。
- (73) ざまあ、みろ。いい気味だ。
○N. R
- (74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
①「コノ ガ」キ。 ②「チクショ」ー。
- (75) このやろう、どうしてくれようか。
○「コノ ガ」キ 「ドナイ シテ クレン」ネン。
- (76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。
○N. R
- (77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。
○ {①アホン「ダ」ラ。 ②ボ「ケ」 ③カ「ス」} エーカゲ「ン」ナ コ」ト 「ヌカ」
ス ナ
- (78) あなかま、静かにしなさい。
○N. R
- (79) いいっ、静かにして！
○「シー」シ「ズ」カニ 「セン カ」イ。
- (80) ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。
①チ「チ」ン「プイプイ」 「カゼノ」カミ 「トンデ イ」ケー。〈風邪を引いたとき、
するめをこがしてまじないをした〉
②チ「チ」ン「プイプイ」 「イ」タイノ 「イ」タイノ 「トンデ イ」ケー。〈怪我をし
たとき、生米を噛んで患部につけて言った〉
- (81) あっかんべい、鬼さん、こちら。
○「ア」カ「ベ」ー。〈「あっかんべい」とは言わなかった〉
- (82) あっばれ、お見事、立派です。
○N. R
- (83) でかした、でかした。日本一。
○N. R
- (84) しっけい！ すみません。

①「シ」モタ 「エ」ライ コト シ」タ。スンマセ「ン。

②カン「ニ」ン ナ。

(85)あばよ、達者でな。

○「ホ」ナ 「サ」イ「ナ」ラ。

Ⅲ. 総括

1. 調査項目Ⅰの「自己に向かって発信する『立ち上げ詞』」で得られた「立ち上げ詞」は、(1)ヨッコラショ(どっこいしょ)、(2)サテト(どうれ)、(8)クソツ(なにくそ)(11)チクショー(ちくしょう)、(12)クソツ(くそつ)であった。いずれも標準語形との隔たりはあまりなく、当方言にのみ特徴的なものは見られなかった。

2. 古い大阪方言の「立ち上げ詞」に「コオツト」がある。牧村史陽編『大阪ことば事典』には、

コオツト(感)「はて、どうやったかなア」と、迷い、あるいは考えかえす時に発する語。「斯くと」の訛であろうか。カクト→コウト→コウツト→コウツト?

例 コオツト、いつやったかいな。思い出せんな。

とあり、本調査項目の「自己に向かって発信する『立ち上げ詞』」に当たる。念のため、本調査の話者に確かめたところ、「親の世代はよく使っており、昭和の初めまで耳にしたが、戦後は聞かなくなった。自分たちも使ったことはない。」とのことであった。今では、上方落語くらいでしか耳にすることはない。

(かぶらぎ まさひろ 大阪教育大学附属高等学校平野校舎)